

## 解剖学Ⅱ

責任者・コーディネーター	解剖学講座（機能形態学分野） 藤原 尚樹 教授		
担当講座（分野）	解剖学講座（機能形態学分野）		
対象学年	2	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習 実習
期間	通期		前期 56.0時間 28.0時間 後期 28.0時間 112.0時間

## 学修方針（講義概要等）

歯ならびに口腔領域をはじめとする身体の健康を維持するために必要な人体の正常構造と機能を理解することは、人体がどのような仕組みで生命活動を営み、それを維持しているかを知ることだけでなく、病気の成り立ちや診断に対する、あるいは歯科医としての治療方針や治療計画を立案する際の基礎知識にもなる。全身の中の頭頸部領域の位置づけ、特に口腔領域の構造や消化管の入口としての他器官との連続性や気道との関係性を三次元的に理解することは、歯科医を目指す学生においては必須である。また解剖学的知識は全身疾患をもつ患者の全身的症状とそれらに対する適切な治療や口腔ケア、障害から頭頸部領域を再建する際にも必要な知識でもあるため、口腔機能と関連する器官の構造的特徴、共通性および関連性を理解する事が重要である。そのため解剖学では、身体各部の構造について組織・発生学的背景を含めて系統的に学修する中で、人体の成り立ちの基本原則と人体の構成要素である各器官の組織構築を統合的に学修する。また相互の組織・器官が連携する事で営まれる生理機能の礎としての解剖学の意義を説明できるよう学修する。さらに硬組織と周囲組織が密接な関係のもとで成り立っている歯を含めた口腔領域の正常形態と変異の幅について、将来歯科医として適切な治療や最新医療に対応するために必要な解剖学的知識を学修する。

## 教育成果（アウトカム）

## 【講義】

人体を構成する諸器官の形態的特徴と空間的結合・配置について、その機能との関連を考えながら学ぶことにより、形態の普遍性と変異を理解できるようになる。また器官が持つ形態の意義とその構造が存在する理由を個体発生的・系統発生的に理解できるようになる。さらに歯科医師として歯科疾患ならびに口腔疾患に対する適切な検査や治療そして検査結果の必要十分な理解を可能とするために、臨床上必須な局所解剖学的知識に基づいて、頭頸部領域の構造を説明できるようになる。

## 【実習】

講義で学んだ諸器官の形態的特徴について、三次元的な空間的結合・配置、周囲組織との連続性や機能的関連性を考えながら学ぶことにより、各器官の機能的背景にある形態を三次元的に理解できるようになる。さらに歯科医師として歯科ならびに頭頸部領域の治療や再建を想定し、臨床上必須となる三次元的な形態学的知識と構造的イメージが具体的に整理され、正常な組織間の関連性を説明できるようになる。解剖実習を通じて医療従事者に必要な倫理観を身につけることができる。

（関連するディプロマポリシー：1、3、4、8、9）

## 到達目標 (SBOs)

1. 歯科医師の視点から人体の成り立ちについて包括的に捉え、解剖学の必要性を説明できる。
2. 基本的人権の尊重、歯科医師を目指す学生としての倫理観について理解し、遵守できる。
3. 歯科医師として必要な人体の構造と機能について説明できる。
4. 歯科医師として必要な頭頸部の構造について摂食・嚥下機能との関連性を元に説明できる。
5. 歯科治療において必要な歯の形態的特徴と機能との関係性、異常について説明できる。
6. 自己学修や自己教育力が専門職には重要な要件であることを説明できる。
7. 臨床解剖実習を通じ、チーム医療の礎となるコミュニケーションならびに1つの目標に対峙する際の他者への思いやりと協調性の意義について説明できる。

## 事前事後学修の具体的内容及び時間

### 【事前学修】

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、テキストと各欄に示す教科書の該当領域を読み、要点をまとめておくこと。また「口腔顎顔面解剖ノート」の該当ページあるいは配付する資料による課題をWebClassで毎回指定するので、これらを実施し各授業の開始前に提出すること。その内容については授業の中で概説しフィードバックする。解剖学は積み重ね式に学習が構成されており、各授業の前にはそれまでに学修した内容について振り返りを行う必要があり、講義、実習中に質問あるいはディスカッションによって事前学習の確認を行うと共に適宜質問に対するフィードバックを行う。そのため各講義の事前学習として平均30分程度を要する。また演習・実習においてはそれまでの教育内容の理解を深め定着を図ることを目的とするため、演習・実習ごとに具体的な時間を表記するので参照すること。本内容は全授業に対して該当するものとする。

### 【事後学修】

次回の授業の効果的な理解のために、各講義の学修内容の理解と整理が必要となる。講義のまとめと課題は遅滞することなく、次回の講義前までに完成することで有効な学修効果を発揮する。そのため授業中にテキストに記入した内容の整理など各講義の振り返りとして平均45分程度の事後学修を行うことが必要である。本内容は実習を含め全授業に対して該当するものとする。演習は単元全体を通して学修した内容の振り返りだけでなく単元の統合的な理解と定着のための資料や学修ポイントを提供するので、演習終了後はこれらの資料を元に他の単元との関係性も考慮して事後学修を行う必要がある。学修内容によって必要な事後学習の想定時間は変動するので、講義・演習・実習の内容ごとに具体的な時間を表記するので参照すること。

(事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均45分を要する)

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	4/3 (金)	3	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野) 吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>骨学：内・外頭蓋底</b>  頭蓋骨を構成する骨と各骨の連結、配置を理解し、頭蓋底の構造、孔、裂、溝、管と脈管・神経の走行との関係性を理解する。	1. 頭蓋骨の基本的配列を説明できる。 2. 頭蓋底の解剖学的特徴を説明できる。 3. 内頭蓋底、外頭蓋底の孔、裂、溝、管と神経、血管の走行との関係を説明できる。 4. 内頭蓋底と外頭蓋底にみられる構造の解剖学的関連性を説明できる。 5. 頭蓋の成長と構造の関連性を説明できる。 <b>[A-3-2-2, 3, 5, 6, 8]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。 P113～P126 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度
講義	4/3 (金)	4	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野) 吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>骨学：上顎骨・口蓋骨・頬骨</b>  上顎骨・口蓋骨・頬骨の形態と翼口蓋窩と上顎神経の走行の関係性を理解する。	1. 頭蓋骨における上顎骨の位置を説明できる。 2. 上顎骨、口蓋骨、頬骨の解剖学的構造と周囲骨との関連性を説明できる。 3. 口蓋・鼻腔の構成を説明できる。 4. 上顎の歯、口蓋に分布する神経の経路を説明できる。 5. 上顎洞の構造的特徴について説明ができる。 6. 翼口蓋窩と周囲腔の交通を説明できる。 <b>[A-3-2-2, 3, 5, 6]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。 P126～P133, 136～139, 271～274, 281～293 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度

講義	4/10 (金)	3	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>骨学：下顎骨・舌骨</b></p> <p>下顎骨の形態と筋肉の付着、舌骨の役割を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 咀嚼筋の付着部位を説明できる。</li> <li>2. 顎関節の構成要素としての下顎骨を説明できる。</li> <li>3. 舌骨上筋・舌骨下筋と下顎骨、舌骨の関係性を説明できる。</li> <li>4. 下顎の歯に分布する神経の走行経路を説明できる。</li> <li>5. 印象採得時に注意すべき構造について説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-2-2, 3, 5, 6]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P133～136, 272～280, 281～293</p> <p>所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	4/10 (金)	4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>骨学：側頭骨・蝶形骨・後頭骨</b></p> <p>頭蓋底の重要な構成要素である側頭骨、蝶形骨、後頭骨の解剖学的特徴を理解する。これらの骨にある構造と脳神経の走行経路の関係を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 側頭骨の解剖学的特徴を説明できる。</li> <li>2. 蝶形骨の解剖学的特徴を説明できる。</li> <li>3. 後頭骨の解剖学的特徴を説明できる。</li> <li>4. 側頭骨、蝶形骨、後頭骨と頭蓋腔から外頭蓋底へ出入りする脳神経や脈管の走行との関連を説明できる。</li> <li>5. 側頭骨、蝶形骨、後頭骨における筋の付着部位、構造的特徴を説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-2-2, 3, 5, 6]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P120～P125 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

演習	4/16 (木)	3	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>筋学：表情筋</b></p> <p>表情筋の種類と作用を理解する。</p>	<p>1. 表情筋の種類（広頸筋含む）と機能を説明できる。</p> <p>2. 眼裂、口裂周囲筋の構造と作用を説明できる。</p> <p>3. 頬筋の解剖学的特徴を説明できる。</p> <p>4. 表情筋の神経支配を説明できる。</p> <p>5. 表情筋の栄養血管を説明できる。</p> <p>6. 皮筋の解剖学的特徴を説明できる。</p> <p><b>[A-3-2-2, 3, 4, 5, 6, 10]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P140～143, 146, 278～279 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	4/17 (金)	3	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>筋学：咀嚼筋</b></p> <p>咀嚼筋の種類、起始停止と作用関係を理解する。</p>	<p>1. 各咀嚼筋の起始停止と作用との関係を説明できる。</p> <p>2. 咀嚼筋の総合的な機能を説明できる。</p> <p>3. 咀嚼筋の神経支配を説明できる。</p> <p>4. 咀嚼筋の栄養血管を説明できる。</p> <p>5. 翼突下顎隙の構成と意義について説明できる。</p> <p><b>[A-3-2-2, 3, 4, 5, 6, 10]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P143～146 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

講義	4/17 (金)	4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>筋学：頸部の筋、舌骨上筋群、舌骨下筋群</b></p> <p>舌骨上筋と舌骨下筋の種類と作用を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広頸筋・胸鎖乳突筋の走行と支配神経を説明できる。</li> <li>2. 舌骨上筋群の種類と起始停止、作用を説明できる。</li> <li>3. 舌骨下筋の種類と起始停止、作用を説明できる。</li> <li>4. 舌骨上筋、舌骨下筋の神経支配を説明できる。</li> <li>5. 後頭部の筋、斜角筋群の種類と解剖学的特徴を説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-2-2, 3, 4, 5, 6, 10]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P145～149 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	4/24 (金)	3	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>筋学：頸筋膜と筋膜隙</b></p> <p>頸筋膜の概念、筋膜隙と周囲の解剖学的構造についての関連性を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 頸筋膜の概念、その構造と作用を説明できる。</li> <li>2. 頸動脈鞘を説明できる。</li> <li>3. 各筋膜隙の構成とその隙に存在する解剖学的構造を説明できる。</li> <li>4. 頸部の筋膜隙と縦隔の関連性について炎症波及の観点から説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-2-1, 2, 3, 4, 5, 6]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P106～109, 148, 256～262 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

講義	4/24 (金)	4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>顎関節</b></p> <p>顎関節の構造的特徴を理解する。 顎関節と咀嚼筋との機能的関連性を理解する。</p>	<p>1. 顎関節の解剖学的特徴を説明できる。</p> <p>2. 下顎運動と関連する顎関節の形状、下顎窩、関節円板の特徴を説明できる。</p> <p>3. 咀嚼筋と関節の動きの関係性を説明できる。</p> <p>4. 顎関節の靭帯の種類と解剖学的意義を説明できる。</p> <p>5. 顎関節の手術の際に気をつけるべき脈管について説明できる。</p> <p><b>[A-3-2-2, 3, 4, 5, 6, 8, 10]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P143～145, 150～153 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	4/30 (木)	3	<p>桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)</p> <p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>画像解剖学：頭部エックス線規格写真（セファログラム）と計測基準点</b></p> <p>歯科矯正、歯科放射線に関連する画像解剖学を理解する。</p>	<p>1. 頭蓋骨の形態と頭部エックス線規格写真を対比し、矯正歯科的基準点を理解する。</p> <p>2. 頭蓋骨の基準平面、計測点を説明できる。</p> <p>3. エックス線セファログラムの計測点を説明できる。</p> <p>4. 頭部計測基準点と頭蓋骨の構造とを関連づけて説明できる。</p> <p><b>[A-3-2-2, 3, D-2-5-7]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P240～P255 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

講義	5/1 (金)	3	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>循環器系の概論 心臓</b></p> <p>肺循環と体循環、リンパの流れを理解する。脈管の分類、特徴を理解する。心臓の構造と出入りする血管、その中を流れる血液の性状を理解する。</p>	<p>1. 肺循環、体循環、リンパの流れの概念を説明できる。</p> <p>2. 動脈、静脈、リンパ管の形態学および機能的違いを説明できる。</p> <p>3. 心臓の形態学的特徴から、各部位の機能を説明できる。</p> <p>4. 心臓の構造および出入りする血管と流れる血液の性状について、心臓の機能を元に説明できる。</p> <p>5. 心臓の拍動と心電図波形の関係を説明できる。</p> <p><b>[A-3-1-4-1, 2, 3, A-3-2-5]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P40～45, 52～60, 154～155 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	5/1 (金)	4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>骨学・筋学演習</b></p> <p>全身を構成する骨・筋、特に頭頸部を構成する骨・筋の解剖学的特徴を整理する。</p>	<p>1. 全身の骨と関節を列挙できる。</p> <p>2. 頭蓋骨を構成する骨、縫合や結合、筋の付着部について説明できる。</p> <p>3. 頭蓋底にみられる孔、裂、管等と通過する脈管・神経などを説明できる。</p> <p>4. 全身の主な筋肉の起始・停止と機能について説明できる。</p> <p>5. 表情筋・咀嚼筋の機能を説明できる。</p> <p>6. 舌骨上筋・舌骨下筋群の種類と機能を説明できる。</p> <p>7. 咀嚼・嚥下運動に関わる解剖学的構造を説明できる。</p> <p>8. 頭部計測基準点と頭蓋骨の構造について説明できる。</p> <p><b>[A-3-2-1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10]</b></p> <p>事前学修：これまでにWebClassに提示した「口腔顎顔面解剖ノート」の課題と「口腔解剖学第3版」の以下の領域を振り返り、内容を整理しておくこと。P1～39, 106～109, 133～153, 240～262, 271～293 所要時間60分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間60分程度</p>

<p>演習</p>	<p>5/12 (火)</p>	<p>4</p>	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>骨学・筋学のまとめ</b></p> <p>到達度試験</p>	<p>1. 全身の骨・筋について総合的に説明できる。</p> <p>2. 頭蓋骨を構成する骨と付着する筋の関係性について総合的に説明できる。</p> <p>3. 頭蓋底にみられる孔、裂、管等と通過する脈管・神経、筋隙などを立体的にイメージし、説明できる。</p> <p>4. 咀嚼・嚥下運動に関わる解剖学的構造を説明できる。</p> <p>5. 頭部計測基準点と頭蓋骨の構造について説明できる。</p> <p><b>[A-3-2-1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10]</b></p> <p>事前学修：これまでにWebClassに提示した「口腔顎顔面解剖ノート」の課題と「口腔解剖学第3版」の以下の領域を振り返り、内容を整理しておくこと。P1～39, 106～109, 133～153, 240～262, 271～293 所要時間90分程度</p> <p>事後学修：試験終了後掲示する正答を見て自己採点し、理解不足の点について振り返りを行うこと。 所要時間60分程度</p>
<p>講義</p>	<p>5/14 (木)</p>	<p>3</p>	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>脈管学：大動脈、上肢・下肢の動脈</b></p> <p>大動脈弓の枝、胸腹部大動脈の枝および分布領域を理解する。 上肢と下肢の動脈の相同性と分布の特徴を理解する。</p>	<p>1. 大動脈弓と枝の分岐位置を説明できる。</p> <p>2. 胸大動脈・腹大動脈の枝と関連する臓器を説明できる。</p> <p>3. 上肢に分布する動脈の走行と特徴を説明できる。</p> <p>4. 骨盤内の動脈の分岐と分布域の特徴を説明できる。</p> <p>5. 下肢に分布する動脈の走行と特徴を説明できる。</p> <p>6. 拍動を触れる動脈について説明できる。</p> <p><b>[A-3-1-4-1, 2, 3, A-3-2-5]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P45～50, 154～155, 161～162, 297～299 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

講義	5/15 (金)	3	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>脈管学：頭頸部の動脈内頸動脈・外頸動脈の枝（上甲状腺動脈、顔面動脈、舌動脈）</b></p> <p>頭頸部の動脈の走行を理解する。 内頸動脈・外頸動脈の走行を理解する。 上甲状腺動脈、顔面動脈、舌動脈の分枝と栄養供給範囲を理解する。</p>	<p>1. 頭頸部に分布する動脈の分岐・走行経路を説明できる。 2. 脳への血液供給と大脳動脈輪の関係を説明できる。 3. 外頸動脈の分枝、特に上甲状腺動脈・顔面動脈・舌動脈の分岐および走行経路、これらが栄養血管となる臓器を説明できる。 <b>[A-3-1-4-2, A-3-2-2, 3, 5]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施し、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P156～158, 160～161, 295～296, 264～265 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	5/15 (金)	4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>脈管学：外頸動脈の終枝（顎動脈、浅側頭動脈）</b></p> <p>外頸動脈終枝の分布範囲を理解する。 顎動脈の走行経路を理解する。</p>	<p>1. 浅側頭動脈の分岐および走行経路を説明できる。 2. 顎動脈の区分、分布領域、走行経路を説明できる。 3. 口蓋、上顎と下顎の歯や歯周組織に分布する動脈の走行経路を説明できる。 <b>[A-3-1-4-2, A-3-2-2, 3, 5]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P158～160, 263～264, 294～297 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

講義	5/21 (木)	3	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>脈管学：全身の静脈系・頭頸部の静脈</b></p> <p>静脈の走行経路や皮静脈、側副循環などの特徴を理解する。 頭頸部の血液の回収経路としての静脈を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 静脈の走行の特徴を動脈との比較において説明できる。</li> <li>2. 皮静脈、奇静脈系について説明できる。</li> <li>3. 門脈系、側副循環路の意義を説明できる。</li> <li>4. 静脈注射に用いる血管を説明できる。</li> <li>5. 内頸静脈の枝と回収域を説明できる。</li> <li>6. 翼突筋静脈叢・海綿静脈洞、頭蓋腔からの導出静脈などを含めた顎顔面の静脈の特徴を説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-1-4-2, A-3-2-2, 3, 5]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P50～52, 162～164, 299 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	5/22 (金)	3	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>脈管学：全身のリンパ系 頭頸部のリンパ管</b></p> <p>排導系としての機能が炎症伝播路となるリンパ管経路の特殊性について理解する。 全身のリンパ管構築、および頭頸部におけるリンパ組織、特に領域リンパ節について理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一次リンパ性器官の位置、構造を説明できる。</li> <li>2. 全身のリンパ管構築の特徴を説明できる。</li> <li>3. Virchowのリンパ節の臨床上的重要性を説明できる。</li> <li>4. 顎顔面・口腔領域の所属リンパ節を説明できる。</li> <li>5. Waldeyerの咽頭輪を構成する扁桃とこれらの意義を説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-1-4-6, A-3-2-2, 3, 5]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P60～65, 164～169, 304～308 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

講義	5/22 (金)	4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>脈管学：胎生循環 脈管学総復習</b></p> <p>胎生期特有の血液の流れやそれに伴う構造と共にこれらの構造に関連する出生後の構造を理解する。 動脈・静脈の頭頸部ならびに全身の解剖学的特徴を整理する。</p>	<p>1. 胎生循環と心臓の構造の関係を説明できる。 2. 胎生期に特有の循環経路とそれを構成する血管の役割を説明できる。 3. 胎生期に特有の血管に関連する出生後の構造について説明できる。 4. 臨床上必要な全身の動脈と静脈を列挙し、意義を説明できる。 5. 頭頸部の主な動脈の走行と分布範囲を説明できる。 6. 頭頸部の静脈の走行を説明できる。 <b>[A-2-2-2, A-3-1-4-1, 2, 3, 6, A-3-2-2, 3, 5]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施するとともに、これまでにWebClassに提示した「口腔顎顔面解剖ノート」の課題と「口腔解剖学第3版」の以下の領域を振り返り、内容を整理しておくこと。P52～65, 154～169 所要時間60分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間60分程度</p>
講義	5/26 (火)	4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>神経学総論 神経学：脳幹</b></p> <p>中枢神経の構成と構造について理解する。 延髄・橋・中脳的位置や構造、役割を理解する。</p>	<p>1. 中枢神経系・脳室の構造について発生学の視点から説明できる。 2. 中枢神経の区分を説明できる。 3. 灰白質と白質、伝導路の相違を説明できる。 4. 脳幹の構成要素、位置及び機能を説明できる。 <b>[A-3-1-5-4, A-3-2-2, 3, 6, 7]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P66～72, 74～77, 170 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

演習	5/28 (木)	3	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>脈管学のまとめ</b></p> <p>到達度試験</p>	<p>1. 全身の主な血管を列挙できる。 2. 頭頸部の主な動脈の走行を関係する骨の形態、鼻腔、口腔、咽頭の構造から歯科医療の視点で説明できる。 3. 頭頸部の静脈の走行を説明できる。 4. 胎生期と出生後の血流の異同を説明できる。 5. リンパの流れとリンパ節の関係を説明できる。 <b>[A-2-2-2, A-3-1-4-1, 2, 3, 6, A-3-2-2, 3, 5]</b> 事前学修：これまでにWebClassに提示した「口腔顎顔面解剖ノート」の課題と「口腔解剖学第3版」の以下の領域を振り返り、内容を整理しておくこと。P52～65, 154～169 所要時間90分程度 事後学修：試験終了後掲示する正答を見て自己採点し、理解不足の点について振り返りを行うこと。 所要時間60分程度</p>
講義	6/4 (木)	3	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>神経学：間脳、小脳、終脳、脊髄</b></p> <p>間脳・小脳・終脳・脊髄の構造と異同について理解する。 終脳の各領域(野)と機能、脊髄の前角と後角の機能的な特徴について理解する。 脳の保護の仕組みを理解する。</p>	<p>1. 中枢神経の組織構築と異同について説明できる。 2. 間脳、小脳の構造と機能を説明できる。 3. 大脳回と大脳溝の構成と大脳各部の機能との関係性を説明できる。 4. 脊髄の各部の機能と特徴を説明できる。 5. 脳室・脊髄中心管と脳脊髄液の循環、髄膜について説明できる。 <b>[A-3-1-5-4, A-3-2-2, 3, 6, 7]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P72～80, 170～178 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

講義	6/11 (木)	3	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>神経学：末梢神経概論 脊髄神経、自律神経</b></p> <p>脊髄神経の特徴、各神経叢の構成と支配領域や機能を理解する。 自律神経の支配領域や神経節について理解する。</p>	<p>1. 末梢神経の種類とその概略を説明できる。 2. 脊髄神経の構成と特徴を説明できる。 3. 頸神経叢の構成を説明できる。 4. 腕神経叢、肋間神経、腰仙骨神経叢の構成について説明できる。 5. 交感神経、副交感神経の解剖学的特徴や神経節、分布範囲について説明できる。 <b>[A-3-1-5-1, 2, 3, 4, A-3-2-2, 3, 6, 7]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P80～88, 178～180, 183～195 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	6/18 (木)	3	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>神経学：特殊体性求心性神経、体性運動神経 (脳神経 I～IV、VI、VIII、XII)</b></p> <p>嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、外転神経、内耳神経、舌下神経の支配領域と機能を理解する。</p>	<p>1. 嗅神経と嗅覚受容器の位置関係を説明できる。 2. 視神経の機能と走行経路の特徴を説明できる 3. 眼筋の種類と支配する脳神経を説明できる。 4. 内耳神経が司る感覚と走行経路を説明できる。 5. 舌下神経の走行経路と支配する筋を説明できる。 <b>[A-3-1-5-1, 2, 4, A-3-1-6-1, A-3-2-2, 3, 6]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P180, 188～189, 192 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

講義	6/25 (木)	3	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>神経学：鰓弓神経 1 (脳神経 V1、V2、IX)</b></p> <p>眼神経、上顎神経の走行経路と支配領域を理解する。 舌咽神経の支配領域と機能を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 三叉神経の走行を説明できる。</li> <li>2. 眼神経の走行経路と支配領域を説明できる。</li> <li>3. 上顎神経の走行経路、支配領域と機能との関係を説明できる。</li> <li>4. 翼口蓋神経節とこの神経節に由来する神経の分布範囲を説明できる。</li> <li>5. 顔面、上顎の歯の知覚を支配する神経を説明できる。</li> <li>6. 舌咽神経の走行経路と支配領域を説明できる。</li> <li>7. 頸動脈洞、頸動脈小体の役割を説明できる。</li> <li>8. 耳下腺の神経支配・走行経路と耳神経節との関連を説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-1-5-1, 2, 3, 4, A-3-1-6-2, A-3-2-2, 3, 6, 7]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P181～186, 189～190, 264～265, 289～293 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	7/2 (木)	3	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>神経学：鰓弓神経 2 (脳神経 V3、X、XI)</b></p> <p>下顎神経の走行経路と支配領域を理解する。 迷走神経、副神経の支配領域と機能を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 下顎神経の走行経路、支配領域と機能との関係を説明できる。</li> <li>2. 下顎神経と関連する神経節と節後線維の支配領域を説明できる。</li> <li>3. 顔面、下顎の歯の神経支配を説明できる。</li> <li>4. 第一鰓弓に由来する筋、咀嚼筋の神経支配を説明できる。</li> <li>5. 迷走神経・副神経の神経支配を説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-1-5-1, 2, 3, 4, A-3-1-6-2, 3, A-3-2-2, 3, 6, 7]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P181～182, 184～186, 190～192, 263～265, 289～293 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

講義	7/9 (木)	3	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)  吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>神経学：鰓弓神経3 (脳神経Ⅶ)と自律神経</b>  顔面神経の支配領域と走行経路を理解する。頭頸部に分布する自律神経の構成と機能を理解する。	1. 顔面神経の走行経路と支配領域、機能を説明できる。 2. 鼓索神経と顎下神経節の関係を説明できる。 3. 頭頸部における交感神経節と関連する神経支配について説明できる。 <b>[A-3-1-5-1, 2, 3, 4, A-3-1-6-2, A-3-2-2, 3, 6, 7]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P83～86, 187～193 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度
講義	7/16 (木)	3	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)  吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>神経学演習</b>  中枢神経、末梢神経の解剖学的特徴を整理する。 頭頸部の構造を支配する神経の走行経路や機能を整理する。	1. 中枢神経の基本構造を説明できる。 2. 脊髄神経に由来する各神経叢の枝の走行、分布を説明できる。 3. 自律神経の構成を説明できる。 4. 第Ⅰ～Ⅻ脳神経の走行経路と支配する機能を説明できる。 5. 頭頸部の感覚・運動を支配する脳神経の分布領域や走行経路、機能を具体的に説明できる。 <b>[A-3-1-5-1, 2, 3, 4, A-3-1-6-1, 2, 3, A-3-2-2, 3, 6, 7]</b> 事前学修：これまでにWebClassに提示した「口腔顎顔面解剖ノート」の課題と「口腔解剖学第3版」の以下の領域を振り返り、内容を整理しておくこと。P66～88, 170～195, 263～265, 289～293 所要時間60分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間60分程度
講義	9/25 (金)	2	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)  吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>口腔内臓1：口腔の区分、口唇、口腔前庭、歯肉</b>  口腔・口唇の範囲を理解する。口腔粘膜の特徴と粘膜の種類と機能を理解する。	1. 口腔の区分を説明できる。 2. 粘膜の分類を説明できる。 3. 口唇の構造、脈管・神経支配を説明できる。 4. 口腔前庭・歯肉の構造を説明できる。 <b>[A-3-2-2, 3, 4, 5, 6, A-3-3-1, 2]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P208～211 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度

講義	10/2 (金)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>口腔内臓2：固有口腔、口蓋</b></p> <p>固有口腔の範囲を理解する。 硬口蓋～軟口蓋粘膜と裏打ちする骨、筋肉を理解する。</p>	<p>1. 固有口腔の区分、解剖学的特徴を説明できる。 2. 硬口蓋を構成する骨を説明できる。 3. 軟口蓋（口蓋帆）を構成する筋肉の構成と支配神経を説明できる。 4. 口峽部にみられる構造、鼻咽腔との関係性を説明できる。 <b>[A-3-2-2, 3, 4, 5, 6, A-3-3-1, 2, 4]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P196～198, 211～214, 277～280 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	10/9 (金)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>口腔内臓3：口腔底、舌</b></p> <p>口腔底の構造を理解する。 舌背の構造、支配神経を理解する。 舌を構成する筋肉、舌周辺の筋肉と栄養血管の関係を理解する。</p>	<p>1. 口腔底にみられる構造、舌下隙との関係性を説明できる。 2. 舌乳頭の種類と存在部位、味蕾の存在する部位を説明できる。 3. 内舌筋、外舌筋の走行、機能を説明できる。 4. 舌の支配神経、脈管、リンパを説明できる。 <b>[A-3-2-2, 3, 4, 5, 6, A-3-3-1, 2, 3]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P214～217 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

講義	10/16 (金)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>口腔内臓4：唾液腺</b></p> <p>唾液腺の種類と解剖学的特徴、分泌に関わる支配神経を理解する。</p>	<p>1. 唾液腺の構造、存在場所および唾液の性状による分類を説明できる。</p> <p>2. 唾液腺の神経支配、栄養血管を説明できる。</p> <p>3. 舌咽神経の走行経路と分布域を説明できる。</p> <p>4. 鼓索神経の走行経路と分布域を説明できる。</p> <p>5. 味覚障害と関係する他の疾患から神経の走行経路における障害部位を特定できる。</p> <p><b>[A-3-2-2, 3, 4, 5, 6, A-3-3-1, 2, 3, 7]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P217～223 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	10/23 (金)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>咽頭の構造と嚥下</b></p> <p>咽頭を構成する筋肉を理解する。 咀嚼・嚥下に関わる筋肉の種類と走行を理解する。</p>	<p>1. 咽頭各部の構造を説明できる。</p> <p>2. 咽頭筋の種類と機能を説明できる。</p> <p>3. 摂食嚥下の5期の各ステージと関与する筋群、これらの動作を支配する神経の関連を説明できる。</p> <p><b>[A-3-2-2, 3, 4, 5, 6, 9, 10, 12, 15, 16, A-3-3-1, 2, 3, 4]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P223～226, 266～270 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

講義	10/30 (金)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>内臓学1：呼吸器、消化器</b></p> <p>呼吸器系、消化器系の解剖学的特徴を理解する。</p>	<p>1. 鼻腔、咽頭、喉頭の解剖学的構造を説明できる。</p> <p>2. 気管、気管支、肺の解剖学的構造を説明できる。</p> <p>3. 消化管各部位の解剖学的特徴について説明できる。</p> <p>4. 肝臓、胆嚢、膵臓の構造、位置及び機能について説明できる。</p> <p>5. 腹膜と腹膜後器官について説明できる。</p> <p><b>[A-3-1-7-1, 2, A-3-1-8-1, 2, A-3-2-1, 2, 3, 4, 5, 6, 10, 12, 13, 14, 15, 16, A-3-3-1, 2, 3, 4, 8]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P97～105, 227～234, 300～303 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	11/6 (金)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>内臓学2：内分泌、泌尿器、生殖器</b></p> <p>内分泌器官、泌尿生殖器系の解剖学的特徴を理解する。</p>	<p>1. 内分泌器官の種類、位置、構造について説明できる。</p> <p>2. 内分泌器官、細胞から産生されるホルモンと機能について説明できる。</p> <p>3. 腎臓、尿管、膀胱の解剖学的構造について説明できる。</p> <p>4. 男性生殖器の構造を説明できる。</p> <p>5. 女性生殖器の構造を説明できる。</p> <p><b>[A-3-1-9-1, 2, A-3-1-10-1, A-3-1-11-1]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」P100～101, 234～239の領域と「解剖学実習の手引き」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P229～269 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

講義	11/13 (金)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>内臓学3：感覚器 口腔内臓学、内臓学総復習</b></p> <p>感覚受容器官の解剖学的特徴を理解する。消化器系、呼吸器系の解剖学的特徴を整理する。頭頸部周辺および口腔内臓の構造と支配する神経の走行や機能を整理する。</p>	<p>1. 視覚、聴覚、平衡覚に関する感覚器の構造について説明できる。 2. 固有口腔と口腔前庭、口唇、咽頭、鼻咽腔を説明できる。 3. 咀嚼・嚥下について解剖学的視点から説明できる。 4. 唾液腺の特徴と神経支配を説明できる。 5. 呼吸器、消化器の構造と特徴について説明できる。 [A-3-1-6-1, A-3-1-7-1, 2, A-3-1-8-1, 2, A-3-2-1, 2, 3, 4, 5, 6, 10, 12, 13, 14, 15, 16, A-3-3-1, 2, 3, 4, 7, 8] 事前学修：「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P97～105, 196～239, 266～230, 277～280, 300～303 所要時間60分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間60分程度</p>
演習	11/20 (金)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>口腔内臓学、内臓学のまとめ</b></p> <p>到達度試験</p>	<p>1. 固有口腔と口腔前庭、口唇、咽頭、鼻咽腔を説明できる。 2. 咀嚼・嚥下について解剖学的視点から説明できる。 3. 唾液腺の特徴と神経支配を説明できる。 4. 呼吸器、消化器の構造と特徴について説明できる。 [A-3-1-7-1, 2, A-3-1-8-1, 2, A-3-2-1, 2, 3, 4, 5, 6, 10, 12, 13, 14, 15, 16, A-3-3-1, 2, 3, 4, 7, 8] 事前学修：これまでにWebClassに提示した課題と「口腔解剖学第2版」の以下の領域を振り返り、内容を整理しておくこと。P197～105, 196～198, 208～234, 266～270, 277～280, 300～303 所要時間90分程度 事後学修：試験終了後掲示する正答を見て自己採点し、理解不足の点について振り返りをする。 所要時間60分程度</p>

講義	11/27 (金)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>乳歯総論</b></p> <p>乳歯の形態的特徴を永久歯との比較において理解する。</p>	<p>1. 乳歯の概念を説明できる。 2. 乳歯の特徴を永久歯と比較して説明できる。 3. 乳歯の萌出・歯の交換を説明できる。 4. 乳歯と後継永久歯の形態的異同、形態的特徴が類似する歯種について説明できる。 <b>[A-3-4-1, 2, 4, 5, 6]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P85～P93 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	12/4 (金)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>上・下顎乳切歯 上・下顎乳犬歯</b></p> <p>乳切歯，乳犬歯の形態的特徴を理解する。</p>	<p>1. 乳切歯，乳犬歯に共通する特徴を説明できる。 2. 上顎乳切歯，乳犬歯の形態を説明できる。 3. 下顎乳中切歯，乳犬歯の形態を説明できる。 4. 永久歯との鑑別点を説明できる。 5. 左右側の鑑別点を説明できる。 6. 乳歯と代生歯胚の発育場所との関係とそれに伴う構造を説明できる。 <b>[A-3-4-1, 2, 4, 5, 6]</b> 事前学修：直前の講義で提示する課題を実施すると共に、「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P93～P104 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	12/11 (金)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>上・下顎乳切歯演習 上・下顎乳犬歯演習</b></p> <p>乳切歯，乳犬歯の形態的特徴を理解し、スケッチに表現する。</p>	<p>1. 上顎乳切歯，乳犬歯の形態を理解し、スケッチに表現できる。 2. 下顎乳切歯，乳犬歯の形態を理解し、スケッチに表現できる。 <b>[A-3-4-1, 2, 4, 5, 6]</b> 事前学修：「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域、直前の講義内容を復習しておくこと。P93～P104 所要時間30分程度 事後学修：講義中に学修した内容を元にスケッチに歯の形態を表現し、特徴を列挙すること。 所要時間30分程度</p>

講義	12/18 (金)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>上・下顎乳臼歯</b></p> <p>上・下顎乳臼歯の形態的特徴を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳臼歯の特徴を説明できる。</li> <li>2. 上顎乳臼歯の形態を説明できる。</li> <li>3. 下顎乳臼歯の特徴を説明できる。</li> <li>4. 第二乳臼歯と第一大臼歯の鑑別点を説明できる。</li> <li>5. 左右乳臼歯の鑑別点が説明できる。</li> <li>6. 後継永久歯との形態的異同について説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-4-1, 2, 4, 5, 6]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P104～P113 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	1/8 (金)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>上顎・下顎乳臼歯演習 永久歯・乳歯のまとめ</b></p> <p>上顎・下顎乳臼歯の形態的特徴を理解し、スケッチに表現する。 歯の解剖学のまとめ</p> <p>永久歯と乳歯の形態的特徴を理解し、それらの形態的な異同を整理し、各歯の特徴を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上顎乳臼歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。</li> <li>2. 下顎乳臼歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。</li> <li>3. 左右側ならびに第二乳臼歯と第一大臼歯の鑑別点を説明できる。各歯の鑑別ができる。</li> <li>4. 乳歯の解剖学的特徴を理解し、各歯の鑑別ができる。</li> <li>5. 永久歯の解剖学的特徴を理解し、各歯の鑑別ができる。</li> <li>6. 各歯に好発する異常な形態とそれらが出現しやすい歯種について説明できる。</li> <li>7. 乳歯と後継永久歯の形態的な異同について説明できる。</li> <li>8. 左右の歯の鑑別点を説明できる。</li> <li>9. 歯の発達と交換について臨床的視点から説明できる。</li> <li>10. 歯の咬合関係、咬合線、歯列弓について概説できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-4-1, 2, 4, 5, 6]</b></p> <p>事前学修：「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域、直前の講義内容をまとめておくこと。P37～P141 所要時間60分程度</p> <p>事後学修：講義中に学修した内容を元にスケッチに歯の形態を表現し、特徴を列挙すること。 所要時間30分程度</p>

## 実習日程表

実習	5/29 (金)	3 4	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)  吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>【骨学実習】</b>  全身の骨の形状、連続性を理解し、骨にみられる孔と血管や神経の走行との関係性、各関節を作る骨の配置と動作との関係を三次元的に理解する。	1. 体幹・上肢・下肢を構成する骨の特徴と関連性を説明できる。 2. 肩関節、肘関節、股関節、膝関節などの構造と動きとの関連性を説明できる。 <b>[A-3-1-2-1, A-3-2-2, 8]</b> 事前学習：「口腔解剖学第2版」の以下の領域を読み、内容を復習しておくこと。P5～17, P94～P132, P224～P248 所要時間60分程度 事後学習：実習で観察した骨の特徴を「口腔解剖学第2版」やテキストにある2次元の模式図と比較しその特徴をまとめておくこと。 所要時間90分程度
実習	6/5 (金)	3	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)  吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>【彫刻の仕方】</b>  石膏彫刻をすることにより、歯の形態を立体的に理解し、特に臨床では見えない歯根と歯冠の連続性を想像できるようにする。	1. 歯の方向を示す用語が説明できる。 2. 歯の構造を示す用語が説明できる。 3. 平面的なスケッチを石膏棒に三次元的に表現する方法を説明できる。 4. 石膏に歯の形態を彫刻する手順を説明できる。 <b>[A-3-4-2, 4]</b> 事前学習：「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P200～218 所要時間30分程度 事後学習：上顎中切歯の解剖学的特徴を振り返ると共に、歯型彫刻の手順をまとめておくこと。 所要時間30分程度
実習	6/5 (金)	4	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)  吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>【頭蓋骨実習】</b>  頭蓋骨の形状、連続性を理解し、骨にみられる管・裂・孔と血管や神経の走行との関係性を三次元的に理解する。	1. 頭蓋骨を構成する骨と構造について説明できる。 2. 頭蓋底にみられる管・裂・孔と脈管・神経の走行経路の関係を説明できる。 <b>[A-3-1-2-1, A-3-2-2, 8]</b> 事前学習：「口腔解剖学第2版」の以下の領域を読み、内容を復習しておくこと。P94～P132, P224～P248 所要時間60分程度 事後学習：実習で観察した骨の特徴を「口腔解剖学第2版」やテキストにある2次元の模式図と比較しその特徴をまとめておくこと。 所要時間90分程度

実習	6/12 (金)	3 4	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)  吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	【歯形彫刻・上顎中切歯 1】  上顎中切歯の形態を理解し、三次元的に表現する。	1. 石膏操作が行える。 2. 上顎中切歯の形態が説明できる。 3. 切歯の左右側識別点を説明できる。 4. 上顎中切歯の解剖学的特徴を三次元的に理解し、立体モデルとして表現できる。 【A-3-4-2, 4】 事前学習：「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P37～51 所要時間60分程度 事後学習：歯形彫刻の進行状況を把握し、二次元の歯のスケッチから三次元の歯を彫刻するために必要な形態的特徴を整理しておくこと。 所要時間60分程度
実習	6/19 (金)	3 4	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)  吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	【歯形彫刻・上顎中切歯 2】  上顎中切歯の形態を立体的に理解し、三次元的に表現する。	1. 石膏操作が行える。 2. 上顎中切歯の形態が説明できる。 3. 切歯の左右側識別点を説明できる。 4. 上顎中切歯の解剖学的特徴を三次元的に理解し、立体モデルとして表現できる。 【A-3-4-2, 4】 事前学習：「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P37～51 所要時間60分程度 事後学習：歯形彫刻の進行状況を把握し、二次元の歯のスケッチから三次元の歯を彫刻するために必要な形態的特徴を整理しておくこと。 所要時間60分程度
実習	6/26 (金)	3 4	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)  吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	【歯形彫刻・下顎第一大臼歯 1】  下顎第一大臼歯の形態を理解し、三次元的に表現する。	1. 下顎第一大臼歯の形態が説明できる。 2. 下顎第一大臼歯の左右側を説明できる。 3. 下顎第一大臼歯の解剖学的特徴を三次元的に理解し、立体モデルとして表現できる。 【A-3-4-2, 4】 事前学習：「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P76～83 所要時間60分程度 事後学習：歯形彫刻の進行状況を把握し、二次元の歯のスケッチから三次元の歯を彫刻するために必要な形態的特徴を整理しておくこと。 所要時間60分程度

実習	7/3 (金)	3 4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【歯形彫刻・下顎第一大臼歯2】</b></p> <p>下顎第一大臼歯の形態を立体的に理解し、三次元的に表現する。</p>	<p>1. 下顎第一大臼歯の形態が説明できる。</p> <p>2. 下顎第一大臼歯の左右側を説明できる。</p> <p>3. 下顎第一大臼歯の解剖学的特徴を三次元的に理解し、立体モデルとして表現できる。</p> <p><b>[A-3-4-2, 4]</b></p> <p>事前学習：「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P76～83 所要時間60分程度</p> <p>事後学習：歯型彫刻の進行状況を把握し、二次元の歯のスケッチから三次元の歯を彫刻するために必要な形態的特徴を整理しておくこと。 所要時間60分程度</p>
実習	7/10 (金)	3 4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【永久歯の形態的特徴の総復習】</b></p> <p>上顎・下顎の歯列において、中切歯～第二大臼歯までの形態を復習し、理解する。</p>	<p>1. 上顎の歯の形態を説明できる。</p> <p>2. 下顎の歯の形態を説明できる。</p> <p>3. 左右の歯列に存在する歯を鑑別できる。</p> <p>4. 各歯の特徴的な形態を整理して説明できる</p> <p><b>[A-3-4-1, 2, 3, 4, 5, 6]</b></p> <p>事前学習：「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P37～83 所要時間60分程度</p> <p>事後学習：歯の形態的特徴を総括し、各歯の鑑別ポイントを整理しておくこと。 所要時間60分程度</p>
実習	9/18 (金)	3 4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習1】</b></p> <p><b>背臥位・腹臥位での全身の体表観察</b></p> <p><b>胸腹部の皮剥</b></p> <p>§1 くび・胸・腹部の体表観察と皮切り</p> <p>§3 胸腹部の皮静脈と皮神経</p> <p>§11 うでの皮切りと腕神経叢</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 臨床解剖実習の目的について理解し、倫理観を持って実習を行なう心構えを持てる。</p> <p>2. 必要な実習態度、準備について理解し、実行できる。</p> <p>3. 背臥位・腹臥位で体表に観察できる構造について説明できる。</p> <p>4. 手術痕などを見きわめることができる。</p> <p>5. 表皮、真皮、皮下組織の関係性と構造を理解して、適切に剥皮できる</p> <p>6. 胸部から腹部、腋窩～上肢を適切に剥皮できる。</p> <p>7. 胸部から腹部、上肢、下肢の皮下浅層の構造を説明できる。</p> <p>8. 皮静脈・皮神経の走行に注意しながら剖出できる。</p> <p><b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-2-1, A-3-2-3]</b></p> <p>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P1～7, 9～12, 37～41 所要時間60分程度</p> <p>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間60分程度</p>

<p>実習</p>	<p>9/25 (金)</p>	<p>3 4</p>	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習2】</b> <b>頸部の剥皮</b> <b>広頸筋、頸部浅層（浅頸神経ワナ）の剖出</b> <b>胸腹部の皮神経・皮静脈</b></p> <p>§1 くび・胸・腹部の体表観察と皮切り §2 広頸筋と乳腺</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 頸部の皮膚を広頸筋や神経の走行を理解しながら剖出できる。 2. 頸神経叢を構成する神経とそれらの分布を説明できる。 3. 浅頸神経ワナを構成する頸神経叢と顔面神経頸枝との関係を説明できる。</p> <p><b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-2-1]</b></p> <p>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P1～9 所要時間60分程度</p> <p>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間60分程度</p>
<p>実習</p>	<p>9/29 (火)</p>	<p>3 4</p>	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習3】</b> <b>胸鎖乳突筋の剖出</b> <b>上皮の剥皮と皮神経・皮静脈の剖出</b> <b>胸腹部の筋表層までの剖出</b></p> <p>§4 大胸筋と外腹斜筋 §5 頸神経叢の枝と胸鎖乳突筋 §11 うでの皮切りと腕神経叢</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 頸神経叢を構成する神経とそれらの分布を説明できる。 2. 浅頸神経ワナを構成する頸神経叢と顔面神経頸枝との関係、頸神経ワナから筋肉への神経分布を説明できる。 3. 胸鎖乳突筋の走行と支配神経を説明できる。 4. 広頸筋と表情筋の特殊性を説明できる。 5. 上腕の皮膚を皮神経（外側・内側上腕皮神経、外側・内側前腕皮神経）と皮静脈（橈側皮静脈、尺側皮静脈）の走行を理解しながら剖出できる。 6. 胸腹部の筋（大胸筋、外腹斜筋、前鋸筋など）表層まで剖出し、各筋の走行の特徴を説明できる。</p> <p><b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6]</b></p> <p>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P12～19, 37～41 所要時間60分程度</p> <p>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度</p>

実習	10/2 (金)	3 4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習4】</b> <b>頸部深層（頸神経叢、腕神経叢）の剖出</b> <b>大胸筋の剖出</b></p> <p>§4 大胸筋と外腹斜筋 §5 頸神経叢の枝と胸鎖乳突筋 §9 胸部の深層と腋窩</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 頸神経叢、腕神経叢を剖出し、頸椎の椎間孔からでる位置とその走行経路について説明できる。</p> <p>2. 頸動脈鞘内の脈管・神経、外頸静脈を同定できる。</p> <p>3. 胸鎖乳突筋の起始、停止及び頸神経叢の走行との関係を説明できる</p> <p>4. 大胸筋の起始停止と周囲骨との関係性を説明できる</p> <p><b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6]</b></p> <p>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P12～19, 29～32 所要時間90分程度</p> <p>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。所要時間90分程度</p>
実習	10/6 (火)	3 4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習5】</b> <b>頸部深層（頸神経叢、腕神経叢、鎖骨下動・静脈）の剖出</b> <b>鎖骨離断、静脈角部膨出、斜角筋隙の剖出</b></p> <p>§8 くびのやや深層 §9 胸部の深層と腋窩 §10 鎖骨下動静脈とその枝</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 頸神経叢、腕神経叢を剖出し、頸椎の椎間孔からでる位置とその走行経路について説明できる。</p> <p>2. 鎖骨下動脈・静脈の分岐・吻合について説明できる。</p> <p>3. 静脈角周辺のリンパ節とリンパ管の配置、胸管と頸リンパ本幹との関連を説明できる。</p> <p>4. 胸鎖関節の構成と関節円板の関係性を説明できる。</p> <p><b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6]</b></p> <p>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P25～36 所要時間90分程度</p> <p>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。所要時間90分程度</p>

<p>実習</p>	<p>10/9 (金)</p>	<p>3 4</p>	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習6】</b> <b>頸部深層、鎖骨上窩剖出</b> <b>腕神経叢、斜角筋隙剖出</b> <b>腹直筋、側腹筋の解剖と切断</b></p> <p>§ 8 くびのやや深層 § 9 胸部の深層と腋窩 § 10 鎖骨下動静脈とその枝 § 11 うでの皮切りと腕神経叢 § 30 鼠径部と側腹筋群 § 31 腹直筋鞘 § 38 くびの根もとの深層 § 75 甲状腺と気管</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 頸神経叢、腕神経叢の全容を剖出し、その分岐パターンを説明できる。 2. 鎖骨下動脈の枝を剖出、同定し、その走行を説明できる。 3. 上腕屈筋の走行と神経の走行との関係を説明できる。 4. 椎骨動脈が横突孔に入る位置を観察し、走行について説明できる。 5. 腋窩の構造、脈管・腕神経叢からの枝とその走行について説明できる。 6. 腹直筋と腹直筋鞘、側腹筋と側腹筋筋膜と腹膜、鼠径管との関係について概説できる。 <b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-1-9-1, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6, 13, 15]</b> 事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P25～41, 93～102, 122～125, 287～289 所要時間90分程度 事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度</p>
<p>実習</p>	<p>10/13 (火)</p>	<p>3 4</p>	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習7】</b> <b>開胸</b></p> <p>§ 29 胸壁 § 35 胸腔を開く § 36 胸膜と心膜 § 37 肺 § 39 縦隔</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 胸郭の構成と内胸動脈の走行、胸壁の筋とその走行を説明できる。 2. 自然位での胸部内臓・縦隔の範囲について概説できる。 3. 心臓の位置、心嚢と心臓に出入りする大血管の走行と関係性を説明できる。 <b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-1, 2, A-3-1-5-1, A-3-1-8-1]</b> 事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P91～93, 110～121, 125～127 所要時間90分程度 事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度</p>

実習	10/16 (金)	3 4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習8】</b>  <b>顔面剥皮、表情筋剖出</b>  <b>開腹、鼠径管剖出</b>  <b>腹部内臓の自然位での観察</b></p> <p>§ 30鼠径部と側腹筋群  § 31腹直筋鞘  § 32横筋筋膜と腹膜  § 33臍  § 34腹部内臓の自然位での観察  § 43腹部内臓の位置  § 44腹膜と腹膜腔  § 73顔の浅層</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 表情筋の配置と顔面神経の走行を概説できる。  2. 腹直筋、腹直筋鞘、側腹筋筋膜と腹膜との関係について概説できる。  3. 外側臍ひだ、内側臍ひだ、正中臍ひだを発生学的に説明できる。  4. 腹部内臓を自然位で同定できる。  5. 鼠径管と鼠径管内を走行する構造を同定し、その機能的意味を説明できる。</p> <p><b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-1-7-1, A-3-2-3]</b>  事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P93～109, 143～151, 278～283  所要時間90分程度  事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度</p>
実習	10/20 (火)	3 4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習9】</b>  <b>顔面動脈、顔面神経剖出</b>  <b>耳下腺、耳下腺管剖出</b>  <b>縦隔の観察</b>  <b>心臓・肺の取出</b>  <b>腹部内臓の取出</b></p> <p>§ 36胸膜と心膜  § 37肺  § 40心臓の外景  § 42縦隔の深部  § 44腹膜と腹膜腔  § 45腹部内臓に分布する血管と神経  § 46空腸と回腸と結腸  § 47胃  § 48肝臓  § 49十二指腸・膵臓・脾臓  § 73顔の浅層</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 頸の深層～胸腔の連続性を説明できる。  2. 顔面動脈の走行経路を説明できる。  3. 縦隔にみられる臓器を列挙できる。  4. 腹部内臓と位置、周囲との機能的関係性を説明できる。  5. 横隔膜と周囲の臓器との関係を説明できる。  6. 後胸壁・後腹壁と腹膜後器官について概説できる。  7. 腸間膜の概念を説明できる。</p> <p><b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-1, 2, A-3-1-5-1, 3, A-3-1-7-1, 2, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6, A-3-3-1, 2, 7]</b>  事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P112～122, 127～131, 137～142, 145～173, 278～183  所要時間90分程度  事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度</p>

実習	10/23 (金)	3 4	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)  吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>【臨床解剖実習10】</b>  <b>背部～殿部、下肢の剥皮、脂肪除去 後頭部の剥皮</b>  § 6背なかの皮切り § 7背なかの浅筋 § 27後頭下の筋 § 53下肢の皮静脈と皮神経  の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。	1. 後頭～殿部の筋の走行、脈管・神経の走行経路を説明できる。 2. 肺の左右差、肺門周辺の構造について説明できる。 <b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6]</b> 事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P20～25, 84～86, 191～196 所要時間90分程度 事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度
実習	10/27 (火)	3 4	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)  吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>【臨床解剖実習11】</b>  <b>椎骨動脈の走行経路の観察 後頭部の神経と血管の剖出 脊柱起立筋の観察</b>  § 6背中の皮切り § 10鎖骨下動静脈とその枝 § 26胸腰筋膜と固有背筋 § 27後頭下の筋 § 77脳出し  の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。	1. 後頭の脈管・神経の走行を説明できる。 2. 固有背筋・後頭下の筋の立体的配置と椎骨との関係について概説できる。 3. 臀部を構成する筋肉、これらの筋と坐骨神経との位置的関係を概説できる。 <b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1]</b> 事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P20～22, 33～36, 82～86, 297 所要時間90分程度 事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度

<p>実習</p>	<p>10/30 (金)</p>	<p>3 4</p>	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習12】</b>  <b>腹臥位での後頭～背部筋層の観察</b>  <b>殿部深層の剖出、坐骨神経剖出</b>  <b>後頭下三角の剖出</b>  <b>椎骨動脈の走行経路の観察</b>  <b>脊柱起立筋の観察と除去</b></p> <p>§ 26胸腰筋膜と固有背筋  § 27後頭下の筋  § 56殿部の深層  § 57大腿後面の深層  § 58膝窩と下腿後面</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 脊柱起立筋の走行と椎骨の関係性を説明できる。  2. 後頭下三角の構成と椎骨動脈の走行との関係を説明できる。  3. 広背筋、肩甲骨背面の筋の種類と走行を説明できる。  4. 殿部深層の筋の配置と坐骨神経の走行、それらの関係性を説明できる。  5. 後頭部から殿部までの筋の配置について説明できる。</p> <p><b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6]</b></p> <p>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P82～86, 204～213  所要時間60分程度</p> <p>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間60分程度</p>
<p>実習</p>	<p>11/6 (金)</p>	<p>3 4</p>	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習13】</b>  <b>表情筋剖出2</b>  <b>頭蓋腔の観察（脳神経、髄膜、脳の栄養血管）</b></p> <p>§ 73顔の浅層  § 78頭蓋の内面  § 93脳クモ膜と脳軟膜  § 94脳の血管</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 表情筋の配置と各筋の関係性について概説できる。  2. 脳と脳硬膜、クモ膜、脳軟膜の関係と存在意義を説明できる。  3. 頭蓋底でみられる脳神経、血管について同定し、頭蓋に開く孔などの構造との関係性を説明できる。  4. 脳下垂体の位置と形態について概説できる。</p> <p><b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-1, 2, A-3-1-5-1, 4, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6]</b></p> <p>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。  P278～283, 297～301, 343～347  所要時間60分程度</p> <p>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間60分程度</p>

実習	11/10 (火)	3 4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習14】</b>  <b>脊髄取出</b>  <b>反回神経と動脈管の位置関係</b>  <b>奇静脈の走行の観察</b>  <b>交感神経幹、胸管の剖出</b>  <b>横隔膜</b>  <b>腎臓・副腎の取出</b>  <b>腰神経叢の剖出</b>  <b>腰切断</b></p> <p>§ 28脊髄  § 38くびの根元の深層  § 42縦隔の深部  § 50腎臓と副腎  § 51後胸壁と後腹壁  § 52横隔膜と腰神経叢  § 72くびの深層</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 脊髄の構造について説明できる。  2. 胸腹腔後面を走行するもの、横隔膜を貫通するものについて説明できる。  3. 奇静脈系の走行とその意義、胸管の走行経路とVirchowリンパ節の関係性について説明できる。  5. 反回神経の走行と左右差が存在する意味について説明できる。  5. 腹腔内での腎臓と副腎の位置と周囲臓器との関係を説明できる。  6. 腰神経叢の走行と腰部筋肉との関係について説明できる。  7. 腰切断の際に切断する必要がある構造、椎間円板を介する脊柱の構造について説明できる。  <b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, 4, A-3-1-10-1, A-3-2-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 12, 13, 15, 16]</b>  事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P86～91, 122～125, 137～142, 173～190, 272～278 所要時間60分程度  事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度</p>
実習	11/13 (金)	3 4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習15】</b>  <b>上肢離断</b>  <b>下肢の脂肪除去</b>  <b>下肢の皮静脈、皮神経、筋の剖出</b>  <b>大伏在静脈、大腿三角剖出</b></p> <p>§ 12上腕屈側の筋と神経  § 13肩甲骨の前面の筋  § 14上腕伸側と肩甲骨背面の筋  § 15上肢の切り離し  § 53下肢の皮静脈と皮神経  § 54大腿筋膜と大殿筋  § 55大腿前面の深層  § 56殿部の深層</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 肩甲骨に付着する筋とその走行について説明できる。  2. 体幹から上肢を離断する際に切断する必要がある構造を説明できる。  3. 下肢を構成する筋とその走行について説明できる。  4. 大腿三角の構成と骨盤内の脈管との関係性について説明できる。  5. 大腿後面の筋と膝窩の関係、膝窩を通る脈管・神経について説明できる。  6. 坐骨神経の走行、大腿動脈の走行について説明できる。  <b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1]</b>  事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P41～51, 191～206 所要時間60分程度  事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度</p>

実習	11/17 (火)	3 4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習16】</b>  <b>耳下腺神経叢剖出</b>  <b>頭部離断</b>  <b>舌咽神経、迷走神経の剖出</b>  <b>咽頭後壁の剖出と観察</b>  <b>環椎、軸椎離断</b>  <b>舌骨上筋群の剖出と観察</b>  <b>咽頭後壁を開く</b></p> <p>§ 27後頭下の筋  § 73顔の浅層  § 74咽頭</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 顔面神経の走行経路を理解し外頭蓋の開口部まで剖出することができる。</p> <p>2. 舌骨上筋の同定と走行の変位について説明することができる。</p> <p>3. 環椎、軸椎と後頭骨の関係性を理解し適切に頭部離断ができる。</p> <p>4. 頸静脈孔と通過する神経、その分布について説明することができる。</p> <p>5. 咽頭後壁を構成する筋と周辺の神経との関係性を説明できる。</p> <p>6. 咽頭後壁を正中で開いた際にみられる咽頭や口腔の構造を説明できる。</p> <p><b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-1-7-1, A-3-1-8-1, A-3-2-1, A-3-2-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 12, 13, 14, 15, 16, A-3-3-1, 3, 4]</b></p> <p>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P84～86, 278～287</p> <p>所要時間60分程度</p> <p>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間60分程度</p>
実習	11/20 (金)	3 4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習17】</b>  <b>頭部折半</b>  <b>鼻中隔、鼻腔、口腔、舌、舌骨上筋群、咽頭後壁、甲状腺の観察</b>  <b>舌、舌下部の剖出</b>  <b>鼻腔、鼻中隔の剖出</b></p> <p>§ 73顔の浅層  § 74咽頭  § 75甲状腺と気管  § 76喉頭  § 79頭の半切と口腔  § 80鼻腔と咽頭鼻部  § 83舌と口蓋</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 頭部の正中矢状断する際に、切断する軟組織、骨についての概要を説明できる。</p> <p>2. 頭部を半切してみることが可能になる鼻腔、口蓋、口腔、舌の構造について説明できる。</p> <p>3. 鼻腔、鼻中隔の構造、鼻腔に開口する孔、舌と舌下部、舌を構成する筋について説明できる。</p> <p>4. 咽頭、喉頭の構造について説明できる。</p> <p><b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-1-7-1, A-3-1-8-1, A-3-1-9-1, A-3-2-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 12, 13, 14, 15, 16, A-3-3-1, 2, 3, 4, 5, 8]</b></p> <p>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P278～296, 301～309, 315～316</p> <p>所要時間60分程度</p> <p>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度</p>

実習	11/24 (火)	3 4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習18】</b> 心嚢開放、心臓摘出 心臓壁の血管の剖出 心臓壁の切開 大腿骨切断 足の皮剥</p> <p>§ 40心臓の外景 § 41心臓の内景 § 53下肢の皮静脈と皮神経 § 54大腿筋膜と大殿筋 § 55大腿前面の深層 § 57大腿後面の深層</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 心嚢と心臓の関係について説明できる。</p> <p>2. 冠状動脈、冠状静脈の走行、それらと関係する脈管について説明できる。</p> <p>3. 心臓壁を切開し、血流との関係や心房と心室の違い、胎児循環に関連する構造について説明できる。</p> <p>4. 大腿を構成する筋、血管、神経を同定し大腿を切断することができる。</p> <p>3. 足背、足底の剥皮する際に注意すべき皮下の神経・動脈の走行を説明できる。</p> <p><b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-1, 2, A-3-1-5-1]</b></p> <p>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P127～137, 191～204, 207～210</p> <p>所要時間60分程度</p> <p>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度</p>
実習	11/27 (金)	3 4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習19】</b> 肺、気管支の剖出、観察 脊柱縦断と断面の観察 胸郭の構造総まとめ</p> <p>§ 28脊髄 § 37肺 § 42縦隔の深部</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 肺と気管支の関係性について説明できる。</p> <p>2. 肺に出入りする血管について説明できる。</p> <p>3. 気管支の分岐について説明できる。</p> <p>4. 椎骨と椎間円板の構造、脊柱の前彎と後彎の意義について説明できる。</p> <p><b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, 4, A-3-1-8-1]</b></p> <p>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P86～91, 117～122, 137～142</p> <p>所要時間60分程度</p> <p>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度</p>

<p>実習</p>	<p>12/1 (火)</p>	<p>3 4</p>	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習20】</b> <b>脳の外景、脳血管の観察</b> <b>横隔膜の観察</b> <b>上肢・手の神経と筋肉の膨出</b></p> <p>§ 11 うでの皮切りと腕神経叢 § 12 上腕屈側の筋と神経 § 14 上腕伸側と肩甲骨背面の筋 § 16 前腕屈側の浅い層 § 17 前腕の伸側と手背 § 18 手のひらの皮切りと手掌腱膜 § 19 手のひらの浅い層 § 21 上肢の血管と神経のまとめ § 92 脳の概観 § 93 脳クモ膜と脳軟膜 § 94 脳の血管 § 95 脳神経の根 § 102 大脳皮質 § 103 嗅脳とその付近</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 上腕屈筋の走行と神経の走行との関係を説明できる。 2. 上肢の血管と神経の走行について説明できる。 3. 脳を保護する膜の配置（大脳鎌、小脳テントなど）を概説できる。 4. 脳の概観から各脳を分類できる。 5. 中心溝、外側溝、大脳回・大脳溝の関係を説明できる。 6. 脳の栄養血管を同定し脳に至るまでの走行経路について概説できる。 <b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, 4]</b> 事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P37～44, 46～50, 52～69, 71～73, 342～349, 369～375 所要時間60分程度 事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度</p>
<p>実習</p>	<p>12/4 (金)</p>	<p>3 4</p>	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習21】</b> <b>消化管内腔の観察</b> <b>会陰の皮剥、剖出</b> <b>骨盤内臓の剖出</b> <b>骨盤正中断</b></p> <p>§ 46 空腸と回腸と結腸 § 47 胃 § 64 膀胱とその周辺 § 65 外陰部と精巣 § 66 会陰 § 67 骨盤の切半 § 68 骨盤内臓の位置 § 69 骨盤の血管と神経 § 70 骨盤内臓</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 小腸と大腸の構造的異同、幽門、十二指腸、空腸、回腸の構造について概説できる。 2. 胃の外景、内景、胃の栄養血管について概説できる。 5. 骨盤内臓と動静脈の位置的关系を確認し、骨盤と仙骨を適切に切半できる。 6. 男性・女性の骨盤内臓の断面からその構造と配置を概説できる。 3. 上肢の筋の走行を確認し、関節の動きに対する作用を説明できる。 4. 肩関節の構造について説明できる。 <b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-1-7-1, A-3-1-10-1, A-3-1-11-1]</b> 事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P157～164, 229～269 所要時間60分程度 事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間60分程度</p>

<p>実習</p>	<p>12/8 (火)</p>	<p>3 4</p>	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習22】</b>  <b>口腔底の観察</b>  <b>脳の正中矢状断の観察</b>  <b>肝臓・膵臓・脾臓・十二指腸の観察</b></p> <p>§ 48肝臓  § 49十二指腸・膵臓・脾臓  § 79あたまの切半と口腔  § 101大脳切半と第3脳室  § 104大脳の連合線維とレンズ核  § 105側脳室と尾状核  § 106間脳  § 107大脳と間脳の断面</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 脳の正中矢状断面をみて各脳と脳室の位置関係について説明できる。  2. 肝臓の構造、肝門、胆嚢、胆管の立体的配置について概説できる。  3. 十二指腸、膵臓、脾臓の立体的配置および解剖学的特徴について概説できる。  4. 口腔底の構造、舌神経、舌下神経、大唾液腺の導管の走行、動脈の走行に付いて説明できる。  <b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, 4, A-3-1-7-1, 2, A-3-2-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10]</b>  事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P164～173, 301～305, 364～369, 376～385 所要時間60分程度  事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間60分程度</p>
<p>実習</p>	<p>12/11 (金)</p>	<p>3 4</p>	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習23】</b>  <b>肩関節の観察</b>  <b>股関節の観察</b></p> <p>§ 22肩の関節とその周辺  § 71骨盤壁の筋と股関節</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 肩関節の関節包、ローテータカフの構造的役割について説明できる。  2. 肩関節を構成する骨の構造と筋の関係を説明できる。  4. 寛骨と大腿骨に付着する筋の走行と動作について説明できる。  5. 股関節の構造を概説できる。  <b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1]</b>  事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P73～76, 270～271  所要時間60分程度  事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間60分程度</p>

実習	12/15 (火)	3 4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>志賀華絵非常勤講師</p>	<p><b>【臨床解剖実習24】</b> 腎臓、副腎の観察 咀嚼筋の剖出 翼突下顎隙の剖出 顎動脈の走行経路の剖出 翼突筋静脈叢 肘関節の観察 膝関節の観察</p> <p>§ 23ひじの関節 § 50腎臓と副腎 § 62膝の関節 § 81咀嚼筋と下顎管 § 82顎関節と側頭下窩</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 肘関節の構成と周囲の関節の動きについて説明できる。 2. 腎臓・副腎の構造について断面で説明できる。 3. 咀嚼筋の起始・停止、機能を説明できる。 4. 顎動脈の走行と分岐する枝・翼突筋静脈叢について説明できる。 5. 翼突筋静脈叢～内頸静脈の連続性について説明できる。 6. 翼突下顎隙に存在する構造について説明できる。 7. 膝関節と周囲の筋の走行について説明できる。 8. 膝関節を構成する靭帯の位置と走行、その役割を説明できる。 [A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-1-9-1, A-3-1-10-1, 4, A-3-2-1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, A-3-3-1] 事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。 P76～78, 173～179, 222～225, 309～315 所要時間60分程度 事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度</p>
実習	12/18 (金)	3 4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習25】</b> 眼球の取出と眼窩の観察 眼球の観察 手根関節の剖出と観察 足根関節の剖出と観察 上肢・下肢の総まとめ</p> <p>§ 20手の深い層 § 21上肢の血管と神経のまとめ § 24手くびの関節 § 25手と指の関節 § 59下腿の前面と足背 § 60足底 § 61下腿の最深層 § 63足の関節 § 85眼球を前から見る § 86眼窩の内容 § 87眼球など</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 眼窩を構成する骨と眼窩内部の構造について説明できる。 2. 眼筋と眼球に関連する脈管、神経について説明できる。 3. 眼球の内部構造について説明できる。 4. 手根関節の構造と関連する周辺の骨と筋の構造を説明できる。 5. 足根関節の構造と関連する周辺の骨と筋の構造を説明できる。 6. 上肢の骨、筋、脈管、神経についてを概説できる。 7. 下肢の骨、筋、脈管、神経についてを概説できる。 [A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, 4, A-3-1-6-1] 事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P69～72, 78～81, 213～222, 255～227, 319～329 所要時間60分程度 事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度</p>

<p>実習</p>	<p>12/22 (火)</p>	<p>3 4</p>	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習26】</b>  <b>顎関節の剖出と観察</b>  <b>舌下神経管、頸静脈孔の剖出</b>  <b>外耳・中耳・内耳・顔面神経管の剖出</b>  <b>脳幹の取り外し</b>  <b>側脳室の観察</b></p> <p>§ 82顎関節と側頭下窩  § 88舌下神経管と頸静脈孔  § 89外耳と中耳  § 90内耳  § 96脳幹の外側面  § 97小脳  § 98第4脳室  § 99延髄と橋  § 100脳幹と小脳の横断面  § 105側脳室と尾状核</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 舌下神経管、頸静脈孔の位置を頭蓋骨の構成から説明できる。  2. 舌咽神経、迷走神経、副神経の経路について説明できる。  3. 外耳道を構成する骨・軟骨の範囲を識別できる。  4. 鼓膜、中耳での耳小骨の位置関係、耳管について説明できる。  5. 乳突蜂巣について説明できる。  6. 大脳と側脳室の構造的関係、第三脳室、第四脳室の位置を説明できる。  7. 足根関節と動きの関係について概説できる。  <b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, 4, A-3-1-6-1, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6, 8, A-3-3-1, 3, 4]</b>  事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P313～315, 330～338, 349～364, 378～381 所要時間60分程度  事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度</p>
<p>実習</p>	<p>1/5 (火)</p>	<p>3 4</p>	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習27】</b>  <b>上顎神経、上歯神経叢の剖出と観察</b>  <b>下顎神経と耳神経節の観察</b>  <b>下顎骨の取り外し</b>  <b>翼口蓋窩と翼口蓋神経節の剖出</b>  <b>脊髓の観察</b>  <b>脊柱縦断と断面観察</b></p> <p>§ 28脊髓  § 78頭蓋の内面  § 80鼻腔と咽頭鼻部  § 81咀嚼筋と下顎管  § 84副鼻腔と翼口蓋神経節</p> <p>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。</p>	<p>1. 上顎神経の枝、前上歯槽枝、中上歯槽枝、後上歯槽枝の走行について説明できる。  2. 眼窩下神経、眼窩下動脈の走行と眼窩下溝、眼窩下管、眼窩下孔の立体的位置関係について説明できる。  3. 上歯神経叢と上顎洞の位置関係について説明できる。  4. 翼口蓋窩の位置と構成する骨、みられる動脈、神経について説明できる。  5. 頸髄、胸髄、腰髄、仙髄、馬尾、頸膨大、腰膨大を識別し説明できる。  6. 椎骨と椎間円板の関係、脊柱の前彎と後彎の部位による違い、骨質・椎間円板の加齢に伴う変化について考察できる。  <b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6, 10, A-3-3-1]</b>  事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P86～91, 297～313, 317～318 所要時間60分程度  事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度</p>

実習	1/8 (金)	3 4	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>【臨床解剖実習28】 納棺</b></p> <p>生命の尊厳とは何かについて考える。 臨床解剖実習全過程を振り返り、人体の構造と成り立ちについての理解を確認する。</p>	<p>1. 解剖実習全体を振り返り、人体の構造と成り立ちについて、また生命の尊厳とは何かについて自分の考えをまとめ主張できる。 <b>[C-1-1-1, 2, C-1-2-1]</b> 事前学習：全解剖実習を振り返り、ご遺体から学んだことを統括し、今一度生命の尊厳について自分の考えを整理すること。 所要時間60分程度 事後学習：臨床解剖実習で学んだこと、ご遺体と接することによって得られた生命観について考えをまとめること。 所要時間90分程度</p>
----	------------	--------	---	---	--

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	口腔解剖学 第3版	前田健康、天野修、阿部伸一、馬場麻人 編	医歯薬出版	2025年
教	口腔顎顔面解剖ノート 第2版	井出吉信 監修 阿部伸一ほか 編	学建書院	2022年
教	ネッター 解剖学アトラス 原著第7版	Frank H. Netter著 相磯貞和、今西宣晶 訳	南江堂	2022年
教	解剖実習の手びき 第11版	寺田春水、藤田恒夫	南山堂	2004年
教	図説 歯の解剖学 第2版	高橋和人ほか著	医歯薬出版	1998年
参	プロメテウス 解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖 第4版	M. Schünkeら編 坂井建雄、河田光博監訳	医学書院	2026年
参	プロメテウス 解剖学アトラス 口腔・頭頸部 第2版	Eric W. Baker編 坂井建雄、天野修監訳	医学書院	2018年
参	歯の解剖学 第22版	藤田恒太郎 著 桐野忠大、山下靖雄 改訂	金原出版	1995年
参	イラスト口腔顔面解剖学	松村讓兒、島田和幸 編著	中外医学社	2024年
参	オーラルバイオロジー -病態から学ぶ歯科基礎医学-	Stephen Creanor監修 片倉朗、里村一人、木本茂成監訳	南江堂	2018年
参	基礎から学ぶ歯の解剖	前田健康 編 酒井英一 著	医歯薬出版	2015年
参	ネッター 頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス 原著第3版	Neil S. Norton著 前田健康監訳	医歯薬出版	2018年
参	Moore's 臨床のための解剖学 第3版	Arthur F. Dalley, Anne M. R. Agur著 藤達夫、坂井建雄 監訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2024年
参	ネッター解剖学カラーリングテキスト 原著第3版	John T. Hansen著 相磯貞和監訳	南江堂	2025年
参	日本人体解剖学 改訂20版 全2巻	金子丑之助 原著 金子勝治 監修、穂田真澄 編著	南山堂	2020年
推	標準解剖学 第1版	坂井建雄著	医学書院	2017年
推	口腔の機能と解剖	田畑純、角田佳折著	南山堂	2021年

推	図解 解剖学事典 第3版	Begründet von Heinz Feneis原著 山田英智監訳	医学書院	2013年
推	イラストで分かる歯科医学の基礎 第5版	村上秀明、天野修、大川由一、西村康、吉田篤 監修	末永書店	2025年

### 成績評価方法・基準・配点割合等

前期評価：

骨学・筋学到達度試験（30%）、脈管学到達度試験（30%）、前期試験（35%）、演習レポート・提出物の内容（5%）で評価し、総合評価65%以上を合格とする。

後期評価：

内蔵学到達度試験（30%）、後期試験（35%）、後期実習試験（30%）、実習レポート・歯の形態スケッチ・提出物の内容（5%）で評価し、総合評価65%以上を合格とする。

ただし歯の形態スケッチは学修した歯すべてについて指定された書式で完成させ提出すること、解剖実習の参加に際し倫理的観点から「献体登録者による講話会（10月1日）」を受講すること、解剖実習において欠席が多い場合やご遺体に対する倫理的観点から改善が必要であると判断される場合にこれらを補填するための追加課題を完成させ提出すること、を評価の必要条件とする。

総合評価：前期（50%）、後期（50%）で65%以上を合格とする。

到達目標	DP	演習課題	前期到達度試験	後期到達度試験	定期試験	実習（含試験）	その他	合計
1、2	1					2		2
3、4、5	8、9		30	15	35	10		90
6、7	3、4	5				3		8
								0
<b>合計</b>		<b>5</b>	<b>30</b>	<b>15</b>	<b>35</b>	<b>15</b>	<b>0</b>	<b>100</b>

### 【講義、実習共通】

出席は開始直後にとる。講義・実習の始めに課題や講義内容に関する確認事項を提示する関係から特別な理由がない限りそれ以降に申し出た場合は認めない。

### 【講義】

各講義において学習した内容は次回以降の講義の基盤となる。すなわち各講義、各単元はすべて積み重ね式の講義体系を取っており、講義ごとにその内容をしっかり理解しておく必要がある。それには毎回WebClassで提示する課題、教材において人体の諸器官の構造や機能との関連についての記載を読み、理解できない内容についてリストアップしておくなど事前学修が重要である。初回講義時に配布するテキスト（冊子）、シラバスの各単元に指示する事前学修すべき教科書のページを元に予習することができる。講義はテキストに書込む形式で実施するので必ず持参すること。必要に応じて追加の資料を配布またはWebClassに掲示する。講義後このテキスト・資料を用いて復習することで、予習、講義での学習、復習を同じ資料上で実施することが可能であり、理解の整理が容易になる。また、各単元の終了時に、到達度試験を設定しており、単元の振り返りをするための動機づけになっている。試験の正答は試験実施後すぐに掲示するので各自確認し、新たに生じた疑問はその都度柔軟に対応するので申し出ること。

### 【骨学実習】

第1学年で学んだ全身の骨学と第2学年で学んだ頭頸部の骨学を統合してヒトの骨の形態的特徴を観察し三次元的に理解する。それぞれの骨の形態的特徴やその名称を事前に復習しておく事で、骨の左右や上下の形態的異同を認識し、人体での適切な位置関係や周囲との関係性、関節の構成を把握できる。実習中は常にテキスト、教科書、図譜の記載と見比べながら各骨の形態について観察し、生じた疑問点については教員学生間あるいは学生同士のフリーディスカッションを活用して理解を深めることができる。

### 【歯型彫刻実習】

第1学年で学んだ永久歯の形態について、石膏柱を用いて3倍に拡大して立体的に表現する事で、よりいっそう各歯種に特徴的な形態を理解できる。第1学年に自身で描いた永久歯のスケッチを元に立体模型を削り出していくので事前学習として、歯の形態的特徴を整理しておく必要がある。また適宜学生間でのディスカッションをしながら彫刻を進める事で、自身の理解やスケッチの不備に気づき具体的な歯の形態が成果物に反映できるようになる。また歯の形態の基本的な構成要素を再確認し、立体的な形態に対する理解を深めることができる。このことは臨床の場での歯種の鑑別と各歯の形態的特徴の把握や治療部位の認識・整理に対して直接的に連動する。彫刻の成果物は作成途中から適宜修正ポイントをフィードバックすると共に、最終的に評価後返却する。

### 【臨床解剖実習】

解剖実習は献体者と遺族の献身的な協力の上に成り立つ貴重な機会である。遺族から大切な遺体を託されているという責任を自覚し、その信頼に応えることが強く求められる。実習は標準的な剖出想定時間を元に班のメンバーが分担、積極的に協力して実習を進めることを前提に体系的に組んでいるが、表層から深層に向い遺体の解剖を進めていくので、より表層にある構造の剖出と解剖学的理解が終了していないと次の解剖に進めない。進行状況により補習実習の実施を含め、実習内容を調整する可能性があるため、実習室での指示を注意して聞き、必ず記録すること。遺体を用いた実習であること性格上後戻りはできないため、欠席することがないよう体調管理には十分に留意のうえ、かつ適切な倫理観に基づいて実習に望むこと。欠席回数が多い学生や実習態度に改善が必要と判断される場合、関係する課題を策定し、その課題の実施と提出により学修内容の補填を実施することがある。適宜剖出部位の確認や理解の整理のためスケッチを課すので、学生同士のディスカッションを積極的に行うことで理解を深めることができる。スケッチは評価後に返却する。実習ではチーム医療で必要な相互のコミュニケーションスキルを養うことができる。

（次ページに続く）

### 【アクティブラーニング】

講義においてはすでに学修した内容について振り返る機会を毎回提示し、学生間でディスカッションを行いながら答えを導き出す場を設ける。常に人体の構造を機能との関連性を考えながら講義に臨むと共に、振り返りの習慣を身に付けることで、新たな知識の統合的理解を深める。骨学実習、歯型彫刻実習、臨床解剖実習は座学で單元ごとに学んだ内容を総合的に理解した上で実施することが必要で、実習を行うにあたり提示する予定表を元に事前学修（振り返り整理）を行うとともに、学生同士でその場で議論しながら実習すること自体がアクティブラーニングであり、臨床での治療計画や実際の治療操作に直結する思考を養う。また実習内に提示する課題を班の中で協力して実施することでよりいっそう解剖学的知識の定着、自分自身の理解不足領域の認識、学習内容の理解度を深める。これら課題は実習時間内で教員も参加するフリートーキングやディスカッションを通じてフィードバックすると共に、成果物はその内容を確認した後、返却する。

### 【WebClass】

講義内容に関する予習課題を提示するので、課題を実施し次の講義前に提出すること。これらの内容に対するフィードバックは講義内で行なう。また、その他の演習課題や学修にかかわる情報などもアップロードするので講義の前後で毎回確認すること。各單元終了時には振り返り課題やポイントを提示するので、それらを積極的に活用し学修内容の定着を図ること。課題等により生じた疑問は次回の講義中または講義の前後など適宜設ける教員とのディスカッションの場、オフィスアワーを積極的に利用すること。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 無

### 授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
MacBook Pro 14inch	Apple	1	視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成と提示用
iMac 27 inch	Apple	1	視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成と提示用
iPad Pro 13 inch	Apple	1	視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成と提示用
m-Book K700SN-M2S5	マウスPC	1	視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成と提示用
LIFEBOOK	富士通	1	視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成と提示用
デジタル一眼レフカメラ一式	D700	1	基礎実習・研究用機器	解剖実習遺体の破格症例の画像記録
カラーコピー機 image RUNNER ADVANCE	C3530F II	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成
MSシュレッダー	MSR-25CM	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成
ノートパソコン HP 250G7 Notebook	14T85PA#ABJ	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成
スキャナー附属インクジェットプリンター EP-885AB	EPSOM	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成